

# 2021年度(2022年3月期) 第1四半期決算説明会

2021年 7月 30日  
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

- 本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。  
実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。  
なお、業績などに影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

- 事業利益は、売上収益から 売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。  
連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しています。

■ 本説明資料における表示方法

- 数値：表示単位未満を切り捨て
- 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入
- 年号：断りが無い限り、会計年度を示す

## ■ ご説明のポイント

- 第1四半期実績
- 2021年度通期業績予想
- 持続的成長に向けた取り組み

- COVID-19影響からの市場回復が進む
- 在宅印刷需要は落ち着きをみせるものの、依然として高水準で推移
- 物流の混乱・部材調達難は継続し、また輸送費・部材費高騰による利益影響が見込まれる
- 成長領域は順調に拡大し、成熟領域での構造改革の取り組み効果が表れる

- 本日のご説明のポイントはご覧の通りです。
- 多くの地域で新型コロナウイルス影響からの市場回復が進んでいます。
- その中で、前年に大きく伸びた在宅印刷需要は落ち着きを見せているものの、依然として高い水準で推移しています。
- 一方で、下期には正常化すると予想していた物流の混乱は長期化する見込みであり、部材調達難もあり、供給制約が継続しています。加えて輸送費や部材費も高騰しており、これらによる利益影響を見込む必要があります。
- そのような状況の中、オフィス共有IJPや商業・産業IJPといった成長領域は順調に業績を伸ばし、またプロジェクターやウオッチでは構造改革の取り組みの効果が表れています。
- 本日はこれらについて、詳しくご説明します。

- ご説明のポイント
- **第1四半期実績**
- 2021年度通期業績予想
- 持続的成長に向けた取り組み

# 2021年度 第1四半期決算 | ハイライト

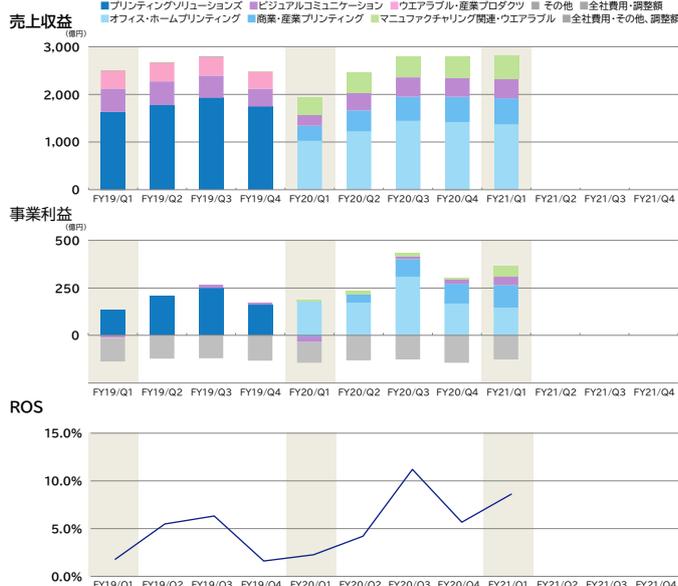
	2020年度		2021年度		対前年同期			
	(億円)	Q1実績	%	Q1実績	%	増減額	増減率	
売上収益		1,932		2,821		+889	+46.0%	
事業利益		43	2.3%	242	8.6%	+198	+455.3%	
営業利益		20	1.1%	236	8.4%	+216	+1052.2%	
税引前利益		11	0.6%	234	8.3%	+223	+1932.6%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		-2	-0.1%	174	6.2%	+177	-	
EPS*1 (円)		-0.71		50.56				
為替レート (円、指数)	USD	¥107.54		¥109.46				
	EUR	¥118.39		¥131.91				
	その他通貨*2	100		111				
				為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
				売上収益	+16	+46	+81	+143
				事業利益	-2	+29	+46	+73

\*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて  
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

- それでは、第1四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期に対して 889億円 増収の 2,821億円、  
事業利益は、198億円 増益の 242億円、
- 四半期利益は、177億円 増益の 174億円 となりました。
- 為替による影響は、売上収益で143億円、事業利益で73億円のプラス  
となりました。
- 当四半期は、すべてのセグメントにおいて想定以上の強い需要があり、  
加えて供給制約の中で販売価格を維持したことなどから、前回予想の  
前提となる社内計画に対して、売上収益・事業利益ともに上回りました。

# 第1四半期決算の概要



■ 旺盛な需要を確実に捉え、売上収益・事業利益ともに前年同期から大幅に回復

## ■ 主な要因

- 各事業でCOVID-19影響からの回復が順調に進む
- 在宅印刷需要継続
- 物流混乱・部材調達難は継続
- 輸送費・部材費が上昇
- 成長領域は順調に伸長、成熟領域では構造改革の取り組みの成果が表れる

- ここでは、第1四半期の業績を、過去の推移をグラフでご覧に入れながらご説明します。
- 第1四半期は売上収益・事業利益ともに前年同期から大幅に回復しました。これは、新型コロナウイルス影響を受ける前の、2019年度と比較しても高い水準です。
- 市場は、新型コロナウイルス影響からの回復が進んでいます。インド、東南アジアなど厳しい状況が続く地域もありますが、北米や中国では確実に経済回復が進み、また日本や欧州でも回復がみられています。
- 在宅印刷需要は、前年同期と比べると落ち着きをみせていますが、依然として高い水準で継続しています。
- 一方で物流の混乱や部材調達難による、供給制約は継続しています。輸送費や部材費も高騰しており、これらがコスト増として影響を与えています。
- こうした環境下、Epson 25 Renewedでお示した領域別マネジメントのもと、成長領域は順調な業績伸長となり、また成熟領域でも構造改革の取り組みの成果が表れ、収益性改善を進めることができました。

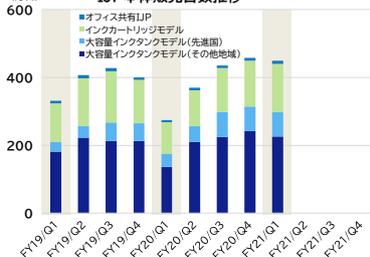
# 2021年度 第1四半期実績 | プリンティングソリューションズ(1)

プリンティングソリューションズ		2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,343	1,923	+579	+104	+43.1%
セグメント利益		171	266	+95	+53	+55.7%
セグメント利益率		12.8%	13.9%			
オフィス・ホームプリンティング		2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,024	1,371	+347	+74	+33.9%
構成比 オフィス・ホームIJP		87%	87%			
SIDM		5%	5%			
その他		8%	8%			
事業利益		177	147	-29	+37	-16.8%
事業利益率		17.3%	10.8%			

## ■ プリンティングソリューションズ

- ▶ COVID-19からの市場回復に伴い増収増益
- オフィス・ホームプリンティング
  - ▶ 在宅印刷需要継続の中、物流混乱・供給不足は継続する中で大容量インクタンクモデルを中心に本体販売伸長
    - ・ IJPインクは、在宅印刷需要が旺盛だった前期から減少
    - ・ 部材費高騰によるコスト増
    - ・ オフィス共有IJPはレーザーからの置き換えで売上収益伸長
    - ・ SIDMは市場回復に伴い増収

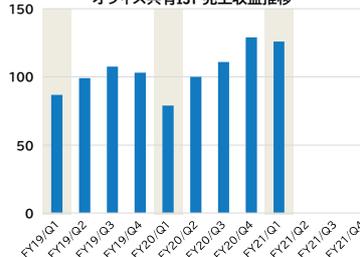
(万台) IJP本体販売台数推移



IJPインク売上収益推移(円貨、前年同期比)



(億円) オフィス共有IJP売上収益推移



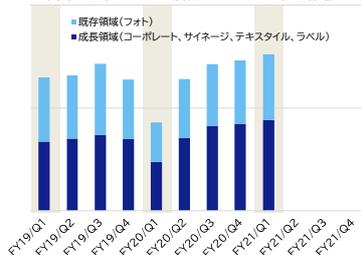
- ▶ プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- ▶ セグメント全体としては、新型コロナウイルス影響からの市場回復に伴い、大幅な増収・増益となりました。
- ▶ オフィス・ホームプリンティングは、増収・減益となりました。
- ▶ オフィス・ホームIJPの前年同期は、本体は、新型コロナウイルス影響により、アジアの製造拠点の臨時休業による供給制約があったことに加え、エマージング地域のロックダウンにより、販売が大きく落ち込みました。
- ▶ これに対して当四半期は、先進国の在宅印刷需要の継続と、エマージング地域の市場回復が進んだことで、大容量インクタンクモデルを中心に、前年同期から販売台数が伸長するとともに、供給制約が継続したことで、販売価格を維持したこともあり、売上収益は大幅に増加しました。
- ▶ インク販売は、安価な印刷コストを実現する大容量インクタンクモデルへのシフトを進めることで、緩やかに減少してきましたが、前年同期は先進国での在宅印刷需要の急拡大により大幅に増加しました。
- ▶ 当四半期は、在宅印刷需要が継続するも、想定通り前年同期からは減収となりました。
- ▶ 事業利益は、大容量インクタンクモデルの増収影響はあるものの、インクの減収影響に加え、部材費高騰によるコスト上昇もあり、減益となりました。
- ▶ なお、成長領域であるオフィス共有IJPは、レーザーからインクジェットへの切替を推し進め、販売が伸長しました。インクジェットの特長である環境性能に加えて、メンテナンスの容易さや消耗品交換頻度の少なさなどへの理解がチャネルパートナーやエンドユーザーに浸透し、着実に販売に繋がっています。

商業・産業プリンティング	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	319	551	+232	+30	+72.7%
商業・産業IJP	211	393	+181		+85.8%
小型プリンター他	107	157	+50		+46.9%
事業利益	-6	119	+125	+16	-
事業利益率	-1.9%	21.6%			

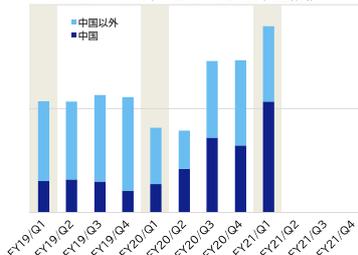
### ■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJPは、市場回復の中で販売伸長
  - ・ 完成品ビジネスは新製品によるラインアップ強化効果
  - ・ プrintヘッド外販ビジネスは中国を中心に順調に伸長
- 小型プリンターは先進国を中心に小売業・飲食業で投資再開の動きがみられ販売増

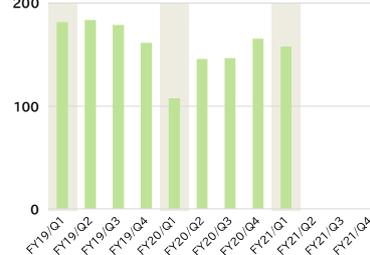
商業・産業IJP 完成品ビジネス売上収益推移



プリントヘッド外販ビジネス売上収益推移



小型プリンター他売上収益推移



- 商業・産業プリンティングは大幅な増収増益となりました。
- 商業・産業IJPは、新型コロナウイルス影響からの市場回復が進みました。完成品ビジネスは、新製品投入によるラインアップ強化の効果もあり、成長領域であるコーポレート・サイネージ・テキスタイル・ラベルなどで、販売が順調に伸長しています。プリントヘッド外販ビジネスは、中国市場の伸長とエプソン製プリントヘッド搭載モデル増加により販売が大幅に伸びました。
- 小型プリンターは、経済活動の再開の中で、小売業や飲食業で投資再開の動きがみられるなど市場回復が進んでおり、販売も堅調に推移しています。

ビジュアルコミュニケーション	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	235	407	+171	+27	+72.8%
セグメント利益	-27	44	+72	+15	-
セグメント利益率	-11.8%	11.0%			

◆ プロジェクターの販売動向\*

	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績
売上収益(円貨)	-52%	+72%
売上収益(現地通貨)	-50%	+60%
販売台数	-57%	+67%

\*社内管理値に基づく指標  
伸長率は前年同期比

■ ビジュアルコミュニケーション

- COVID-19からの市場回復が進む
  - ・教育市場を中心に需要回復
  - ・巣ごもり需要によるホーム向け販売も伸長
  - ・構造改革継続により費用抑制、収益性が大幅に改善

マニファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2020年度 Q1実績	2021年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	355	495	+140	+12	+39.5%
マニファクチャリングソリューションズ	66	93	+26		+39.8%
ウェアラブル機器	53	92	+39		+73.9%
マイクロデバイス他	204	275	+71		+34.9%
PC	36	40	+4		+11.1%
事業間売上収益	-6	-7	-1		-
セグメント利益	10	56	+46	+4	+419.1%
セグメント利益率	3.1%	11.5%			

■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

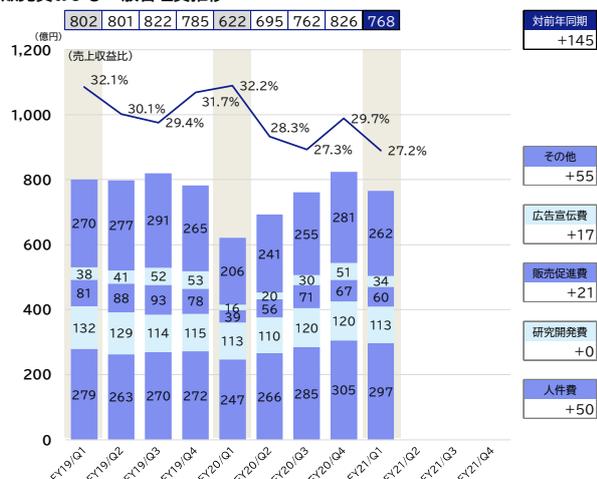
- 市場回復による需要増により、好調な業績
  - ・ロボット、マイクロデバイスは、旺盛な需要が継続
  - ・ウオッチは、高級品を中心に市場回復が進む
- 事業別動向
  - ・マニファクチャリングソリューションズは、中国の電気・電子関連案件、欧米自動車関連案件の獲得などにより好調
  - ・ウェアラブル機器は、市場回復を背景に増収
  - ・マイクロデバイスは、水晶デバイス・半導体ともに、旺盛な需要を受けて販売好調

- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場で、新型コロナウイルス影響からの回復が進んでいます。部材調達難による供給制約があるものの、欧米や中国の教育市場向けに加え、巣ごもり需要が旺盛なホーム向け販売が伸長しています。
- また、構造改革の取り組みを継続し費用を抑制することにより、収益性も大幅に改善しています。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは市場回復による需要増により、増収増益となりました。
- マニファクチャリングソリューションズは、中国の電気・電子関連案件、欧米での自動車関連案件の獲得などにより売上収益が伸長しました。
- ウェアラブル機器は、ウオッチ市場で、新型コロナウイルス影響で大きく落ち込んだ前年同期から、高価格品を中心に回復が進んでいます。中価格帯市場では、国内は依然として厳しい状況が続いていますが、海外市場は回復傾向にあり、ウオッチ・ムーブメントともに前年同期から大幅な売上伸長となりました。
- マイクロデバイスは、前年同期は新型コロナウイルス影響による需要減や、工場稼働停止による供給減もありましたが、当四半期は旺盛な需要を背景に、水晶デバイス、半導体ともに大幅な増収となりました。

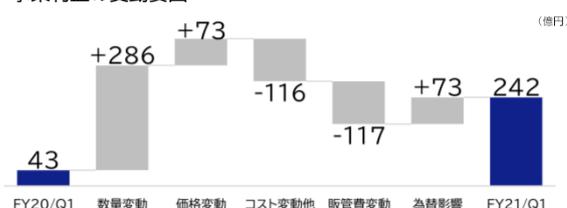
# 第1四半期実績 | 販売費及び一般管理費推移・事業利益増減要因

販管費変動 : 事業活動に制約のあった前年同期に対して増加  
: 効率的な執行を継続

販売費および一般管理費推移



事業利益の変動要因



数量変動  
 + 大容量インクタンクモデル、商業・産業IJP、プロジェクター、ロボット、ウォッチ、マイクロデバイス など  
 - IJPインク など

価格変動  
 + 大容量インクタンクモデル、インクカートリッジモデル、プロジェクター、マイクロデバイス など  
 - 小型プリンター など

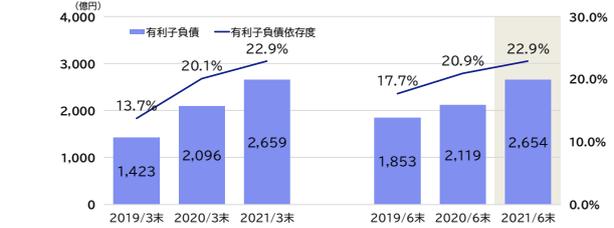
コスト変動他  
 - 部材費の高騰  
 事業活動に制約があった前年同期に対して費用増加

- 販売費及び一般管理費推移、事業利益の増減要因分析はご覧の通りです。
- スライド左側は、販管費の推移です。  
事業活動に制約のあった前年同期に対しては増加していますが、効率的な執行を継続し、販管費率は27.2%となりました。
- スライドの右側は、事業利益の変動要因分析です。  
数量変動は、オフィス・ホーム向けIJPインクで在宅印刷需要が旺盛だった前年同期に対してマイナス影響がありましたが、それを除いては大多数の商品でプラスとなりました。
- 価格変動は、小型プリンターで小売店向け低価格モデルが増加したことで、モデルミックス変動によるマイナス影響がありましたが、大容量インクタンクモデル、インクカートリッジモデル、プロジェクター、マイクロデバイスなどのプラスが上回りました。
- コスト変動他は、部材費の高騰や、事業活動に制約のあった前年同期に対して費用が増加したことなどにより、マイナスとなりました。

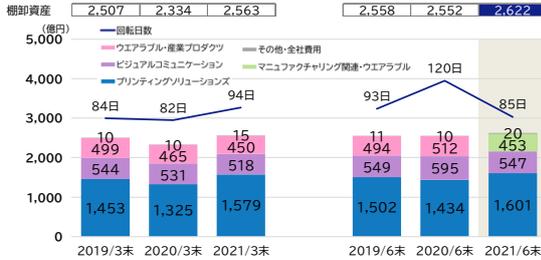
## 資産合計



## 有利子負債・有利子負債依存度



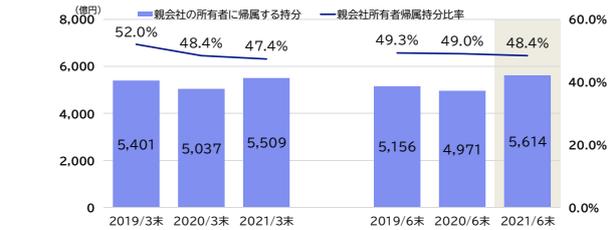
## 棚卸資産・回転日数



## ネットキャッシュ



## 親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者持分比率



※回転日数(日) = 連結会計期間末棚卸資産残高 / 連結会計期間売上高 × 360日  
 ※回転日数(日) = 連結会計期間末棚卸資産残高 / 連結会計期間売上高 × 360日

- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して8億円減少し、1兆1,604億円となりました。これは主に有形固定資産の減少76億円、棚卸資産の増加58億円があったことなどによるものです。
- 棚卸資産は2,622億円、回転日数は85日となりました。
- 有利子負債は前年度末に対して4億円減少し、2,654億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前年度末に対して104億円増加し、5,614億円となりました。

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績
- **2021年度通期業績予想**
- 持続的成長に向けた取り組み

# 2021年度 通期業績予想 | ハイライト

	2020年度		2021年度				増減額/増減比		
	(億円)	実績	%	4/28予想	%	今回予想	%	対前期	対4/28予想
売上収益		9,959		10,700		11,500		+1,540 +15.5%	+800 +7.5%
事業利益		616	6.2%	600	5.6%	750	6.5%	+133 +21.7%	+150 +25.0%
営業利益		476	4.8%	570	5.3%	700	6.1%	+223 +46.9%	+130 +22.8%
税引前利益		449	4.5%	550	5.1%	670	5.8%	+220 +49.1%	+120 +21.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		309	3.1%	380	3.6%	480	4.2%	+170 +55.2%	+100 +26.3%
EPS*1 (円)		89.38		109.83		138.73			
為替レート (円、指数)	USD	¥106.01		¥107.00		¥108.00			
	EUR	¥123.67		¥127.00		¥129.00			
	その他通貨*2	100		103		106			

\*1 EPS：基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の為替レートを為替率ユーロに就いて  
加重平均した値について、前期を100とした指数

\*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)  
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

第2四半期以降の 為替前提(円)	USD	108.00	為替感応度*3 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み
	EUR	128.00	売上収益	-30	-14	-30	+330
		事業利益	+7	-9	-13	+140	

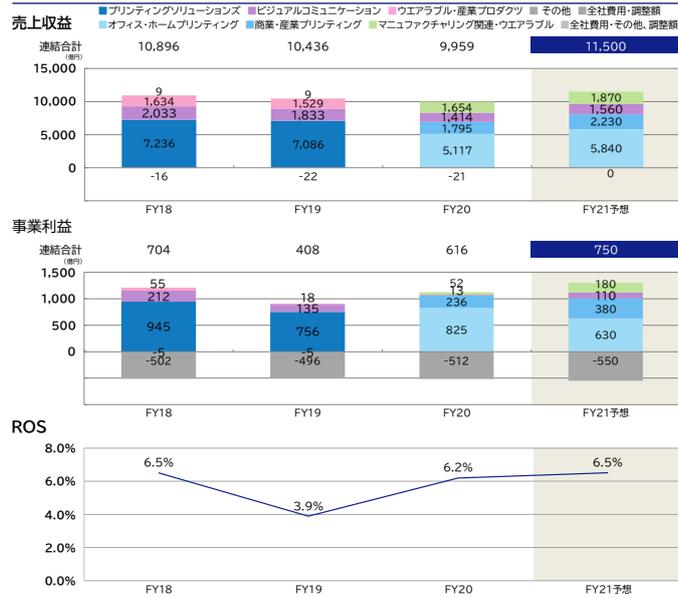
➤ 続きまして、通期業績予想をご説明します。

➤ 売上収益は、1兆1,500億円、  
事業利益は、750億円、  
当期利益は、480億円 としました。

➤ なお第2半期以降の為替前提は、直近の状況を踏まえ、  
USD 108円、EUR128円としました。

➤ 前年度からの 為替変動による影響は、売上収益で 約330億円のプラス  
事業利益で 約140億円のプラス を見込みます。

# 通期業績予想の前提



## ■ 予想の前提

- 世界経済はCOVID-19からの回復が進む
- 物流の混乱・部材調達難による供給制約は下期も継続
- 輸送費・部材費の高騰による物流・製造コスト上昇

➤ 通期業績予想の前提についてご説明します。

➤ 世界経済は新型コロナウイルス影響からの回復が進み、想定以上に旺盛な需要となっています。

➤ 物流の混乱は、下期に落ち着くとした当初の見込みよりも長引くことが予想され、また部材調達難は当初の想定よりも厳しくなり、供給制約は下期も継続する見込みです。

➤ 輸送費、部材費は想定以上に高騰しており、全ての事業の物流・製造コストを押し上げています。

### ■ 販売

- 欧米・日本・中国
  - ✓ COVID-19影響からの市場回復と在宅印刷需要継続により販売伸長
- その他地域
  - ✓ インド・東南アジアなどでCOVID-19が再拡大するも、経済活動が徐々に再開し、販売回復傾向

### ■ 生産

- COVID-19影響拡大に伴い生産体制増強
  - ✓ 部材調達難が厳しさを増す中で工場稼働に制約
- 東南アジア圏における変異株拡大への対応
- 高周波利用設備申請不備による半導体生産遅延影響は僅少

- 販売と生産について、それぞれご説明します。
- 販売は、  
欧米、日本、中国については、新型コロナウイルス影響からの市場回復が進む前提です。  
特にプリンターにおいては、在宅印刷需要が継続し本体販売は伸長する見込みです。
- その他地域については、インドや東南アジアなどで新型コロナウイルス感染が拡大していますが、経済活動が徐々に再開されている中で、販売も回復に向かう見込みです。
- 続いて、生産の状況です。
- 新型コロナウイルス感染影響に対しては、  
前年度からタイや中国などへの分散生産を進め、  
生産体制の増強を図ってきました。  
しかしながら、部材調達難は厳しさを増しており、  
部材確保のためのサプライヤー調整などの対応をとっていますが、  
工場稼働には制約が発生しています。
- また、足元の状況は、マレーシアに加えて、インドネシアやタイなどで  
新型コロナウイルスの変異株感染が拡大しており、  
今後の状況は予断を許しません。  
引き続き各地域の状況について注視し、対応を進めていきます。
- なお、7月15日にリリースしました、高周波利用設備の申請不備による、  
半導体の生産遅延影響は僅少となります。  
今回の不備については厳粛に受け止めるとともに、  
お客様にご迷惑をおかけしていることを深くお詫びいたします。

# 2021年度通期業績予想 | プリンティングソリューションズ

プリンティングソリューションズ	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対4/28 予想
売上収益	6,911	7,530	8,070	+1,158	+16.8%	+540
セグメント利益	1,062	970	1,010	-52	-4.9%	+40
セグメント利益率	15.4%	12.9%	12.5%			

オフィス・ホームプリンティング	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対4/28 予想
売上収益	5,117	5,420	5,840	+722	+14.1%	+420
構成比						
オフィス・ホームIJP	86%	87%	88%			
SIDM	5%	5%	5%			
その他	9%	8%	7%			
事業利益	825	650	630	-195	-23.7%	-20
事業利益率	16.1%	12.0%	10.8%			

商業・産業プリンティング	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対4/28 予想
売上収益	1,795	2,110	2,230	+434	+24.2%	+120
商業・産業IJP	1,230	1,490	1,590	+359	+29.2%	+100
小型プリンター他	564	620	640	+75	+13.3%	+20
事業利益	236	320	380	+143	+60.4%	+60
事業利益率	13.2%	15.2%	17.0%			

## ■ オフィス・ホームプリンティング

- 在宅印刷需要継続による大容量インクタンクモデル数量増
- 供給問題継続による販売価格の高値継続
- 輸送費・部材費高騰によるコスト上昇

## ■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJP完成品の新製品投入効果継続
- プリントヘッド外販は中国市場伸長背景に好調な販売
- 小型プリンターは経済回復の中、堅調な販売

販売動向(社内管理値に基づく指標)	FY20 実績	FY21 4/28予想	FY21 予想	
オフィス・ホームIJP 本体販売数量	伸長率 約、万台	-2%	+16%	+24%
内 大容量インクタンクモデル	1,040	1,250	1,340	
内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	460	510	520	
内 オフィス共有IJP*1	30	30	35	
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	(円貨) (現地通貨)	+6%	-5%	-2%
オフィス・ホームIJP内 オフィス共有IJP売上収益比率	+7%	—	—	
	9%	12%	11%	

- プリンティングソリューションズの通期予想はご覧のとおりです。
- セグメント全体では売上収益、セグメント利益ともに、通期予想を上方修正します。  
オフィス・ホームプリンティング、商業・産業プリンティングともに需要は旺盛ですが、オフィス・ホームプリンティングは輸送費や部材費高騰によるコスト増があり、事業利益を下方修正します。
- オフィス・ホームプリンティングは、IJPでの在宅印刷需要の継続と、市場の回復により、本体販売台数を上方修正し、1,900万台の販売を見込みます。大容量インクタンクモデルは、先進国およびエマージング地域での販売増を見込み、前年より300万台増の1,340万台となります。  
また、供給制約の長期化による販売価格の維持を見込みます。  
オフィス共有IJPはレーザーからインクジェットへの置き換えを進めます。
- なお、インク販売は、第1四半期の実績も想定通りであり、前回予想から大きな変更はありません。  
一方で、コストは、輸送費や部材費の高騰を織り込みました。
- 以上により、売上収益を420億円上方修正し、5,840億円、事業利益は20億円下方修正し、630億円とします。
- 商業・産業プリンティングは、市場回復に加え、成長領域が順調に拡大しています。
- 完成品ビジネスは新製品投入によるラインアップ強化の効果が出ており、プリントヘッド外販ビジネスも中国向け販売を中心に順調に伸長する見込みです。
- 小型プリンターは欧米向け販売が堅調に推移する見込みです。
- 以上により、売上収益を120億円上方修正し、2,230億円、事業利益を60億円上方修正し、380億円を見込みます。

# 2021年度通期業績予想

ビジュアルコミュニケーション  
マニファクチャリング関連・ウェアラブル



ビジュアルコミュニケーション	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対4/28 予想
売上収益	1,414	1,460	1,560	+145	+10.3%	+100
セグメント利益	13	50	110	+96	+715.6%	+60
セグメント利益率	1.0%	3.4%	7.1%			

## ■ ビジュアルコミュニケーション

- ▶ プロジェクター需要は回復傾向にあるものの、FPDや部材調達難の影響を受ける
- ▶ 販売価格の維持やモデルミックス改善
- ▶ コストコントロール強化による収益性改善

◆ プロジェクターの販売動向*	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想
販売台数(万台)	170	170	170
伸長率	-30%	+4%	+1%

\*社内管理値に基づく指標  
伸長率は前年同期比

マニファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2020年度 実績	2021年度 4/28予想	2021年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対4/28 予想
売上収益	1,654	1,700	1,870	+215	+13.0%	+170
マニファクチャリングソリューションズ	286	240	300	+13	+4.7%	+60
ウェアラブル機器	281	310	330	+48	+17.2%	+20
マイクロデバイス他	943	1,010	1,090	+146	+15.5%	+80
PC	165	180	180	+14	+8.7%	-
事業間売上収益	-23	-40	-30	-6	-	+10
セグメント利益	52	100	180	+127	+240.8%	+80
セグメント利益率	3.2%	5.9%	9.6%			

## ■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- ▶ マニファクチャリングソリューションズ
  - 市場回復と新規顧客開拓により販売伸長
- ▶ ウェアラブル機器
  - 高価格品を中心としたウオッチ市場回復
- ▶ マイクロデバイス他
  - 旺盛な需要を受け、水晶デバイス・半導体ともに好調

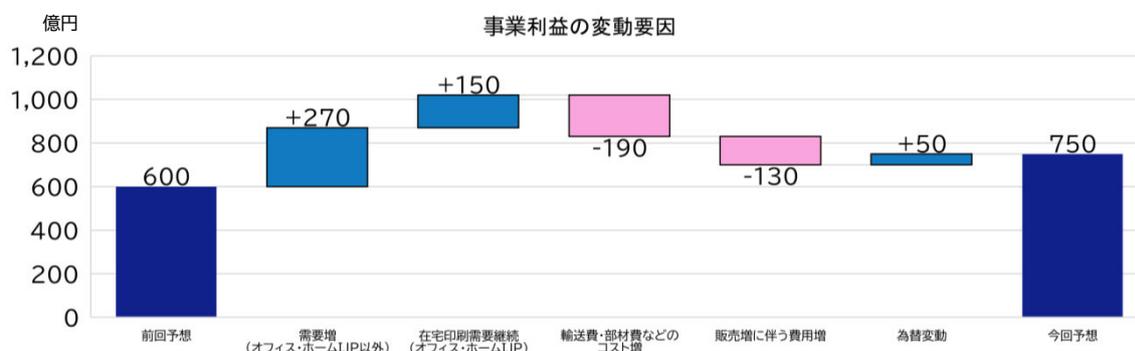
© Seiko Epson Corporation, 2021

17

- ▶ ビジュアルコミュニケーションでは、欧米や中国での教育案件などプロジェクター需要は回復基調にあるものの、引き続きフラットパネルディスプレイや部材調達難の影響を受けると予想しています。
- ▶ 販売価格の維持やモデルミックスの改善を進めるとともに、コストコントロールを継続し収益性を改善します。
- ▶ 以上から、売上収益を100億円上方修正し、1,560億円、事業利益を60億円上方修正し、110億円とします。
- ▶ マニファクチャリング関連・ウェアラブルでは、
- ▶ マニファクチャリングソリューションズとウェアラブル機器は、当初の想定より市場回復が進んでいます。
- ▶ マイクロデバイスは、電子機器などの旺盛な需要を受け、水晶デバイスを中心に売上収益の上方修正を行います。
- ▶ 以上から、売上収益を170億円上方修正し、1,870億円、事業利益を80億円上方修正し、180億円とします。

## 前回予想からの変化

- 需要増加に伴う販売増加
- 在宅印刷需要の継続(大容量インクタンクモデル数量増、本体価格維持)
- 輸送費・部材費などのコスト増加



- 4月28日にお示した事業利益の、前回予想値からの変化をまとめます。
- 新型コロナウイルス影響からの回復が進み各事業において需要が伸びています。また、オフィス・ホームIJPの在宅印刷需要継続も当初の想定よりも高い水準であり、これら販売増加による利益増を約420億円見込みます。
- 一方で輸送費や部材費高騰によるコスト上昇、および販売増に伴う費用増は合わせて約320億円あります。
- さらに50億円ほどの為替変動効果がプラスに働き、全体では前回予想値に対して150億円の上方修正となります。

# 2021年度通期業績予想 | 主要費用・フリーキャッシュフロー・経営指標 **EPSON** EXCEED YOUR VISION

研究開発費

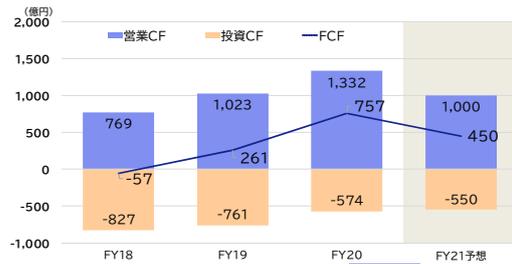


設備投資・減価償却費



\*1 FY18の設備投資・減価償却費にはリース分を含まない

フリー・キャッシュ・フロー



主要経営指標	FY18 実績	FY19 実績	FY20 実績	FY21 予想	FY23 目標	FY25 目標
為替レート:USD	110.86	108.74	106.01	108円	-	-
為替レート:EUR	128.40	120.85	123.67	129円	-	-
売上収益	10,896	10,436	9,959	11,500億円	-	-
事業利益	704	408	616	750億円	-	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	537	77	309	480億円	-	-
ROS <sup>*1</sup>	6.5	3.9	6.2	6.5%	8%以上	10%以上
ROA <sup>*2</sup>	6.8	3.9	5.6	6.4%	-	-
ROE <sup>*3</sup>	10.2	1.5	5.9	8.5%	10%以上	13%以上
ROIC <sup>*4</sup>	7.2	4.1	5.6	6.4%	8%以上	11%以上

\*1 売上収益事業利益率=事業利益/売上収益  
 \*2 資産合計事業利益率=事業利益/期首・期末資産合計平均  
 \*3 親会社所有者帰属持分当期利益率=親会社の所有者に帰属する当期利益/期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均  
 \*4 投下資本利益率=税引後事業利益/(親会社の所有者に帰属する持分+有利子負債)  
 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費は、前回予想から変更はありません。
- キャッシュフローは、  
営業キャッシュフロー・投資キャッシュフローともに修正した結果、  
フリー・キャッシュ・フローは前回予想より150億円上方修正し、  
450億円を予想します。

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績
- 2021年度通期業績予想
- **持続的成長に向けた取り組み**

## ■ TCFDのフレームワークに基づく開示情報をアップデート

- 1.5°Cシナリオに基づき、気候関連リスク・機会を評価
- 財務影響度を定量的に開示

Webサイト

<https://www.epson.jp/SR/tcfdf/>



## ■ ESG指数への選定

- 責任投資の代表指標「FTSE4Good Index Series」に18年連続で選定
- 「FTSE Blossom Japan」をはじめ、GPIFが採用するESG指数のうち、3つの指数に選定



FTSE Blossom Japan



2021 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

- 最後に、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについてご説明します。
- TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)のフレームワークに基づく開示情報をアップデートしました。
- 今年度は、「環境ビジョン2050」で設定したより高い目標を踏まえ、1.5°Cシナリオに基づいて、リスク・機会を評価し直しました。また、財務影響度を定量的に開示しています。
- 詳細は、当社webサイトをご覧ください。
- このようなサステナブルな取り組みが評価された結果、ESG指数にも選定されました。6月には、責任投資の代表的な指標である「FTSE4Good Index Series」に18年連続で選定されました。あわせて、日本株のESG指数である「FTSE Blossom Japan Index」にも継続して選定されました。
- なお、エプソンは、GPIFが採用する4つのESG指数のうち、FTSEを含む3つの指数の構成銘柄に組み込まれています。
- エプソンは、「持続可能でこころ豊かな社会を実現する」というビジョンを掲げています。その実現に向けて、取り組みにメリハリをつけることにより、収益性の確保と将来成長のためのマネジメントを進めてまいります。
- 以上

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

## 補足資料

---

# 主要製品の販売動向

			FY2020 Q1 実績	FY2020 Q2 実績	FY2020 Q3 実績	FY2020 Q4 実績	FY2020 通期 実績	FY2021 Q1 実績	FY2021 通期 予想		
*社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比			USD EUR	107.54 118.39	106.16 124.10	104.48 124.51	105.86 127.68	106.01 123.67	109.46 131.91	108.00 129.00	
オフィス・ホーム プリンティング	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益(円貨)	伸長率	-14%	+2%	+17%	+36%	+12%	+85%	+32%	
		売上収益(現地通貨)	伸長率	-8%	+5%	+22%	+37%	+15%	+74%	-	
		本体数量	伸長率	-17%	-9%	+2%	+14%	-2%	+63%	+24%	
		本体数量	台数	-	-	-	-	約1,540万台	-	約1,900万台	
		内 大容量インクタンクモデル	台数	-	-	-	-	約1,040万台	-	約1,340万台	
		内 SOHO・ホーム向けI/C モデル	台数	-	-	-	-	約460万台	-	約520万台	
		内 オフィス共有IJP	台数	-	-	-	-	約30万台	-	約35万台	
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	-	-	-	-	47%	-	39%	
		売上収益(円貨)	伸長率	+15%	+7%	+5%	-1%	+6%	-7%	-2%	
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+19%	+8%	+6%	-1%	+7%	-11%	-	
	オフィス共有IJP 本体+インク	オフィス・ホームIJP内 売上収益比率	構成比	9%	10%	9%	11%	9%	11%	11%	
		SIDM 本体	売上収益(円貨)	伸長率	-43%	-16%	-19%	+28%	-17%	+40%	+1%
	ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益(円貨)	伸長率	-40%	-15%	-18%	+26%	-16%	+30%	-
			売上収益(現地通貨)	伸長率	-39%	-16%	-22%	+33%	-16%	+25%	-2%
本体数量			伸長率	-52%	-24%	-13%	+4%	-23%	+72%	+10%	
本体数量			伸長率	-50%	-24%	-12%	+3%	-22%	+60%	-	
本体数量			伸長率	-57%	-32%	-20%	-6%	-30%	+67%	+1%	
		本体数量	台数	-	-	-	-	約170万台	-	約170万台	

# 財務データ(2020年度・2021年度)

		FY2020	FY2020	FY2020	FY2020	FY2020	FY2021	FY2021	FY2021	FY2021	(億円)
		Q1	Q2	Q3	Q4	実績	Q1	Q2	Q3	Q4	FY2021
		実績	実績	実績	実績		実績	実績	実績	実績	予想
為替レート	USD	107.54	106.16	104.48	105.86	106.01	109.46				108.00
(円)	EUR	118.39	124.10	124.51	127.68	123.67	131.91				129.00
プリンティングソリューションズ	売上収益	1,343	1,663	1,952	1,951	6,911	1,923				8,070
	セグメント利益	171	216	401	272	1,062	266				1,010
オフィス・ホームプリンティング	売上収益	1,024	1,223	1,448	1,421	5,117	1,371				5,840
	事業利益	177	172	307	168	825	147				630
商業・産業プリンティング	売上収益	319	440	504	530	1,795	551				2,230
	事業利益	-6	44	94	103	236	119				380
ビジュアルコミュニケーション	売上収益	235	376	407	395	1,414	407				1,560
	セグメント利益	-27	1	17	22	13	44				110
マニュファクチャリング関連・ウエアラブル	売上収益	355	424	432	442	1,654	495				1,870
	セグメント利益	10	15	18	7	52	56				180
全社費用・その他、調整額	売上収益	-2	-4	-5	-9	-21	-4				0
	セグメント利益	-110	-131	-126	-143	-512	-126				-550
	売上収益	1,932	2,459	2,788	2,779	9,959	2,821				11,500
	事業利益	43	102	311	157	616	242				750
連結合計	ROS	2.3%	4.2%	11.2%	5.7%	6.2%	8.6%				6.5%
研究開発費		113	110	120	120	464	113				480
設備投資	プリンティングソリューションズ	44	92	65	70	272	51				330
	ビジュアルコミュニケーション	20	27	14	18	80	9				60
	マニュファクチャリング関連・ウエアラブル	16	26	18	43	105	14				130
	全社費用・その他	7	16	19	26	69	6				80
減価償却費	プリンティングソリューションズ	96	94	94	94	380	94				370
	ビジュアルコミュニケーション	31	31	33	33	130	26				100
	マニュファクチャリング関連・ウエアラブル	26	26	26	23	103	21				90
	全社費用・その他	20	20	19	19	79	19				80
営業CF		118	336	476	400	1,332	213				1,000
FCF		-54	174	355	282	757	98				450

# 海外売上収益・従業員数

## 海外売上収益

為替レート(円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	105.86	109.46
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	127.68	131.91

売上収益(億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	対前年同期
米州	745	717	712	753	598	719	733	827	852	+254
欧州	479	537	593	529	397	500	587	598	583	+185
アジア・オセアニア	725	758	744	585	495	739	797	749	868	+372
海外売上収益計	1,951	2,014	2,051	1,869	1,490	1,959	2,119	2,175	2,304	+813
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	2,779	2,821	+889

構成比	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1
米州	29.9%	26.9%	25.5%	30.4%	31.0%	29.3%	26.3%	29.8%	30.2%
欧州	19.2%	20.2%	21.2%	21.4%	20.6%	20.4%	21.1%	21.5%	20.7%
アジア・オセアニア	29.1%	28.5%	26.6%	23.7%	25.6%	30.1%	28.6%	27.0%	30.8%
海外売上収益計	78.2%	75.6%	73.3%	75.5%	77.2%	79.7%	76.0%	78.3%	81.7%

## 従業員数

期末従業員数(人)	2019/6末	2019/9末	2019/12末	2020/3末	2020/6末	2020/9末	2020/12末	2021/3末	2021/6末	対前年同期
国内	19,879	19,825	19,456	19,558	19,962	19,723	19,620	19,470	19,827	-135
海外	58,918	58,914	57,191	56,050	57,107	59,287	62,618	60,474	60,813	+3,706
連結合計	78,797	78,739	76,647	75,608	77,069	79,010	82,238	79,944	80,640	+3,571

# 事業セグメントの変更

変更前(2020年度)

プリンティングソリューションズ	
プリンター	
オフィス・ホームIJP	
大容量インクタンクモデル	
SOHO・ホーム向けI/Cモデル	
オフィス共有IJP	
SIDM	
その他	
プロフェッショナルプリンティング	
商業・産業IJP	
小型プリンター他	
その他(PC他)	
ビジュアルコミュニケーション	
ウェアラブル・産業プロダクト	
ウェアラブル機器	
ロボティクスソリューションズ	
マイクロデバイス他	
その他	
全社費用	

変更後(2021年度)

プリンティングソリューションズ	
オフィス・ホームプリンティング	
オフィス・ホームIJP	
大容量インクタンクモデル	
SOHO・ホーム向けI/Cモデル	
オフィス共有IJP	
SIDM	
その他	
商業・産業プリンティング	
商業・産業IJP	
小型プリンター他	
ビジュアルコミュニケーション	
マニファクチャリング関連・ウェアラブル	
マニファクチャリングソリューションズ*	
ウェアラブル機器	
マイクロデバイス他	
PC	
全社費用・その他	



\*全社費用のマニファクチャリング関連商品を、マニファクチャリングソリューションズ事業に移管

# ビジネス領域

イノベーション

オフィス・ホーム プリンティング  
イノベーション

商業・産業 プリンティング  
イノベーション

ビジュアル  
イノベーション

マニュファクチャリング  
イノベーション

ライフスタイル  
イノベーション

セグメント

プリンティングソリューションズ

ビジュアル  
コミュニケーション

マニュファクチャリング関連・ウェアラブル

事業  
主要製品

オフィス・ホームプリンティング

オフィス・ホームIJP

SOHO・ホーム



大容量インクタンクモデル インクカートリッジモデル

オフィス共有



高速  
ラインジェット  
複合機 (LLI)

大容量インク  
パックモデル  
(RIPS)

オフィス向け  
インクカートリッジ  
モデル



SIDM

スキャナー

PaperLab

レーザープリンター

商業・産業プリンティング

商業・産業IJP

完成品ビジネス



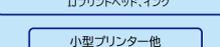
サインージ

ラベルプリンター



テキスタイル

ラベル印刷機



プリントヘッド外販ビジネス

IJプリントヘッド、インク



小型プリンター他



小型プリンター

小型ラベルプリンター

プロジェクター



HMD

マニュファクチャリング  
ソリューションズ

ロボット



6軸

オプション



小型射出成型機



ウェアラブル機器

エプソンブランド



TRUME

オリエント

ムーブメント

セイコービジネス



マイクロ  
デバイス他

マイクロデバイス



エプソンダイレクト  
PC

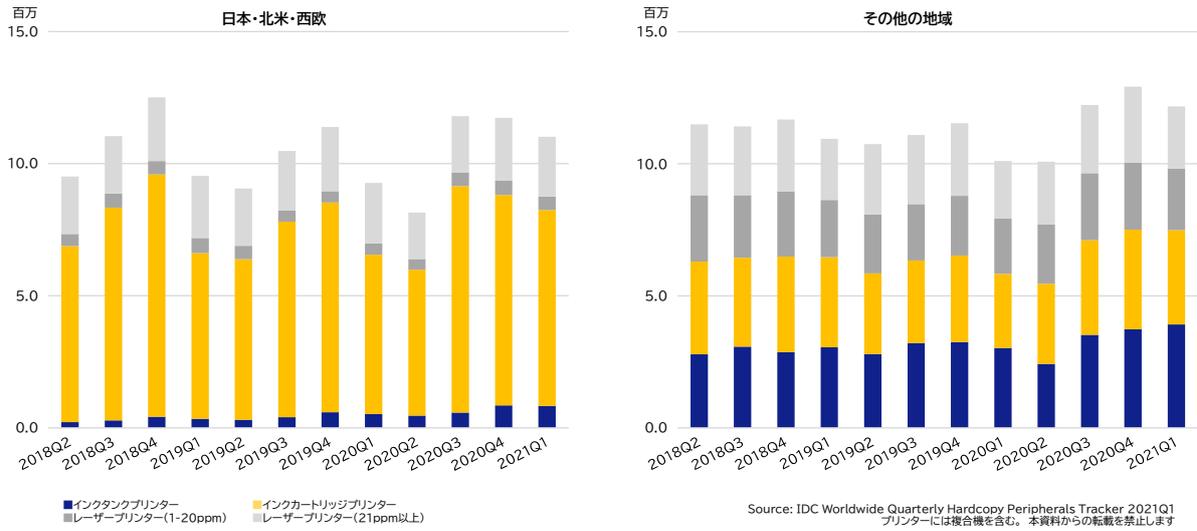
エプソンダイレクト  
PC

微細合金粉末

表面処理加工



## A4サイズプリンタータイプ別台数推移(暦年)



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター(複合機含む)
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル、RIPS、LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、ブルーフ向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター、プリントヘッド外販ビジネスを含む
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル(RIPS)、高速ラインインクジェット(LIJ)の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode(有機EL)
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION